

# 第3次 猿払村 子どもの読書推進計画

(令和3年度～令和7年度)



猿払村教育委員会

## □猿払村子どもの読書推進計画の基本的考え方

### 1. 本を読むことの意義

現代の子どもを取り巻く生活環境は大きく様変わりし、タブレット・スマートフォン・パソコン等の情報通信機器がより身近な存在になり、インターネットでの動画視聴やSNS<sup>※</sup>等に割かれる時間が増加する一方で、マンガや雑誌を除く児童文学書や小説（以下、「本」という。）を読む時間が大きく減少しております。

子ども達が本を読む（以下、「読書」という。）ことで、より多くの‘言葉’や豊かな‘表現力’、‘感性’や‘考える力’が育まれていくと言われており、それぞれの年齢期において優れた本と出会うことは、その後の人格形成に重要な役割を担っております。

その時々で社会状況が大きく変化しても、本そのものの性質は不変であり、猿払村全体で本に触れ親しみ、また、読まれていくように家庭や保育所・学校等と農村環境改善センター図書室が連携した取組みを進めていく必要があります。

※Social Networking Service（ソーシャル・ネットワーキング・サービス）の略で、インターネットを介して人間関係を構築できるスマホ・パソコン用のサービスの総称

### 2. 計画策定の目的

子ども達が夢と希望を持ち健やかに成長していくためには、学校での教育活動はもとより、学校・家庭・地域が一体となり自ら学び自ら考える力や、豊かな人間性等の「生きる力」を育むための環境づくりが求められています。

本村では、平成23年3月に「猿払村子どもの読書推進計画」を策定し、平成28年度からは第2次の読書推進計画により、「本に触れ親しむ」、「家庭での読書推進」、「保育所・学校・図書室と連携した読書活動の推進」を目標に掲げて取組みを進めてまいりました。

この度、計画期間の5か年が経過したことから、現状と今後の課題を検証し見直しを図り、子ども達が読書を通じて豊かな人生を育むことができるよう「第3次猿払村子どもの読書推進計画」を策定いたします。

### 3. 計画の目標

- ① 本に触れ親しむ機会の提供
- ② 家庭での読書習慣の定着
- ③ 保育所・学校における読書活動の推進及び図書室との連携

### 4. 計画策定の期間

令和3年度から令和7年度までの5年間の計画とします。



## 目標1 本に触れ親しむ機会の提供

### 〔本に触れるきっかけづくり〕

子どもが本に親しむきっかけをつくるため、読書に関する情報発信をさらに進め、読書環境の整備に努めます。

#### 〈具体的施策〉

- ① 村ホームページ、広報等での様々な形での情報発信
- ② 蔵書検索を活用した予約と貸出しの推進
- ③ 学校への団体貸出の啓発



## 目標2 家庭における読書習慣の定着

### 〔家庭における読書活動の重要性〕

各家庭においては、インターネットやゲームをする時間を極力短くし、家族みんなが本に触れ親しむ機会を持つことが望まれます。絵本や物語の読み聞かせをしたり、家族で図書室を利用し読みたい本を選ぶ等、子どもが本に出会うキッカケをつくるのが大切です。

また、決まった曜日や時間に家族全員が読書をするなどして、家庭での子どもの読書習慣を形成するための支援を行います。

#### 〈具体的施策〉

- ① 家読（うちどく）の啓発
- ② 家読定着のためのイベントを企画
- ③ 生活リズムチェックシート（読書編）の活用



### ◆家読とは

「家庭読書」の略語で「家族ふれあい読書」を意味し、「家族みんなで読書することで家族のコミュニケーションを深める」ことを目的にした読書運動です。

この取り組みの内容は、次のとおりです。

- 家族そろって読書をする時間を持つ
- みんなで1冊の本を読み感想を語り合う
- 折り紙や料理の本を一緒に読み実際につくってみる



### 目標3 保育所・学校における読書活動の推進及び図書室との連携

学校教育における読書活動が推進されてきたことで、家庭における読書活動の大切さが再認識されています。幼い時期から読書習慣を身につけるためには、保護者への意識啓発が重要であり、講座の開催や情報提供により保護者の理解を一層深めていく必要があります。

#### 〔保育所における読書活動の推進〕

乳幼児期から、家庭で本を親しむ取組みとして新生児を対象とした「ブックスタート事業」を通じて絵本の素晴らしさを保護者に伝えていくことが大切です。

また、保育所で開かれているおはなし広場等に重点をおきながら、図書室や移動図書館車の利用拡大を進めてまいります。

##### 〈保育所との連携〉

- ① おはなし広場の図書室活用
- ② おはなし広場の開催にあわせた移動図書館車の運行検討
- ③ 読書の記録を残すことができる「読書通帳事業」の拡充

**読書通帳** (どくしょつうちょう)

発行日 2020年4月1日

名 前 さくら (さくら)

住 所 猿山町丸山別荘西町 172-1

いずみや教育委員会

■書き方 ※貸出は「読書通帳」の「おはなし広場」で受け取ります。  
【おのれ】 ★お借りた本がなくなった！ ★お返しの日が来た！ ★お返しの日が来た！ ★お返しの日が来た！

| No | 借入日            | 本の名称      | 借入本の種類           | おのれ | 借書印 |
|----|----------------|-----------|------------------|-----|-----|
| 1  | 4月10日<br>4月30日 | パプリックトラマン | おはなしの絵本<br>がなした。 | ☆☆☆ | 読   |
| 2  | 月 日<br>月 日     |           |                  | ☆☆☆ |     |
| 3  | 月 日<br>月 日     |           |                  | ☆☆☆ |     |
| 4  | 月 日<br>月 日     |           |                  | ☆☆☆ |     |

#### 〔学校における読書活動の推進〕

学校図書室は、児童生徒の自由な読書活動や学習情報収集の場としての役割を担うことが期待されています。知的関心等と呼び起こし、豊かな心を育む読書センターとしての機能と、児童生徒の自発的、主体的な学習活動を支援し多様な教育活動に寄与する学習情報センターとしての機能が求められます。

また、中学期の読書は、自我の確立や進路選択などに大きな影響を与えるものです。学校等における読書活動は、子どもが読書習慣を身につけるうえで大きな役割を果たすと共に、確かな学力の基盤を形成する上で重要な役割を担っています。インターネットによる情報社会の今日、タブレット等の利用による読書離れが加速していることから、様々な視点から読書活動を推奨するための工夫した施策が求められます。

##### 〈学校との連携〉

- ① 学校朝読書と連携し団体貸出の推進を強化。また、国が定めた標準蔵書数と差がある学校図書室の蔵書を図書室の団体貸出制度を活用し補う。
- ② 移動図書館車の積載数増のため車両の大型化を検討。児童がより多くの本と出会う環境づくりを目指す。

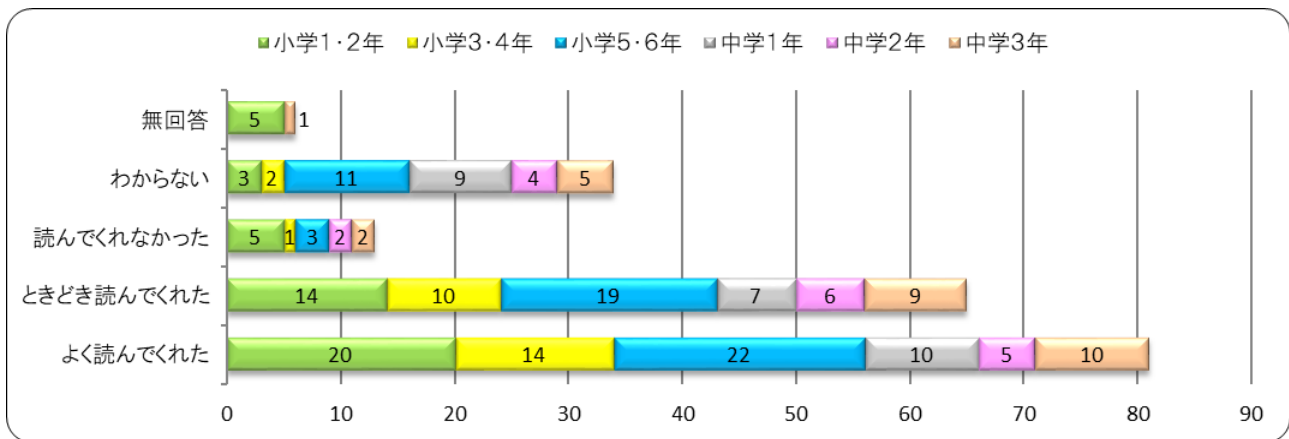
# 児童生徒へのアンケート調査

令和2年5月実施

◆対象 230人／回答 199人（回答率 89.5%）

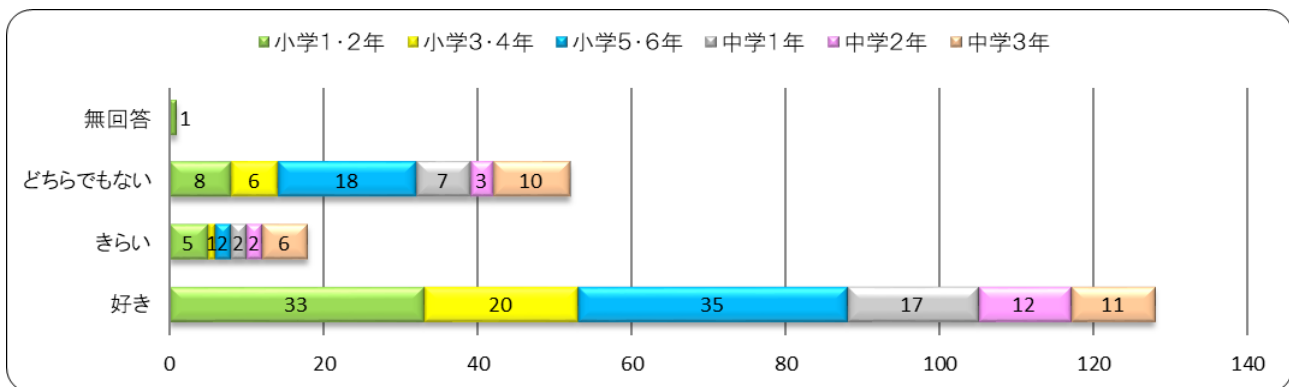
新型コロナウイルス感染症の予防対策として、学校が休業になったことから児童生徒全員から回収できなかった。（特に小学3・4年）

問1 あなたが小さい頃、お父さんやお母さんはえほんや物語の本を読み聞かせてくれましたか？



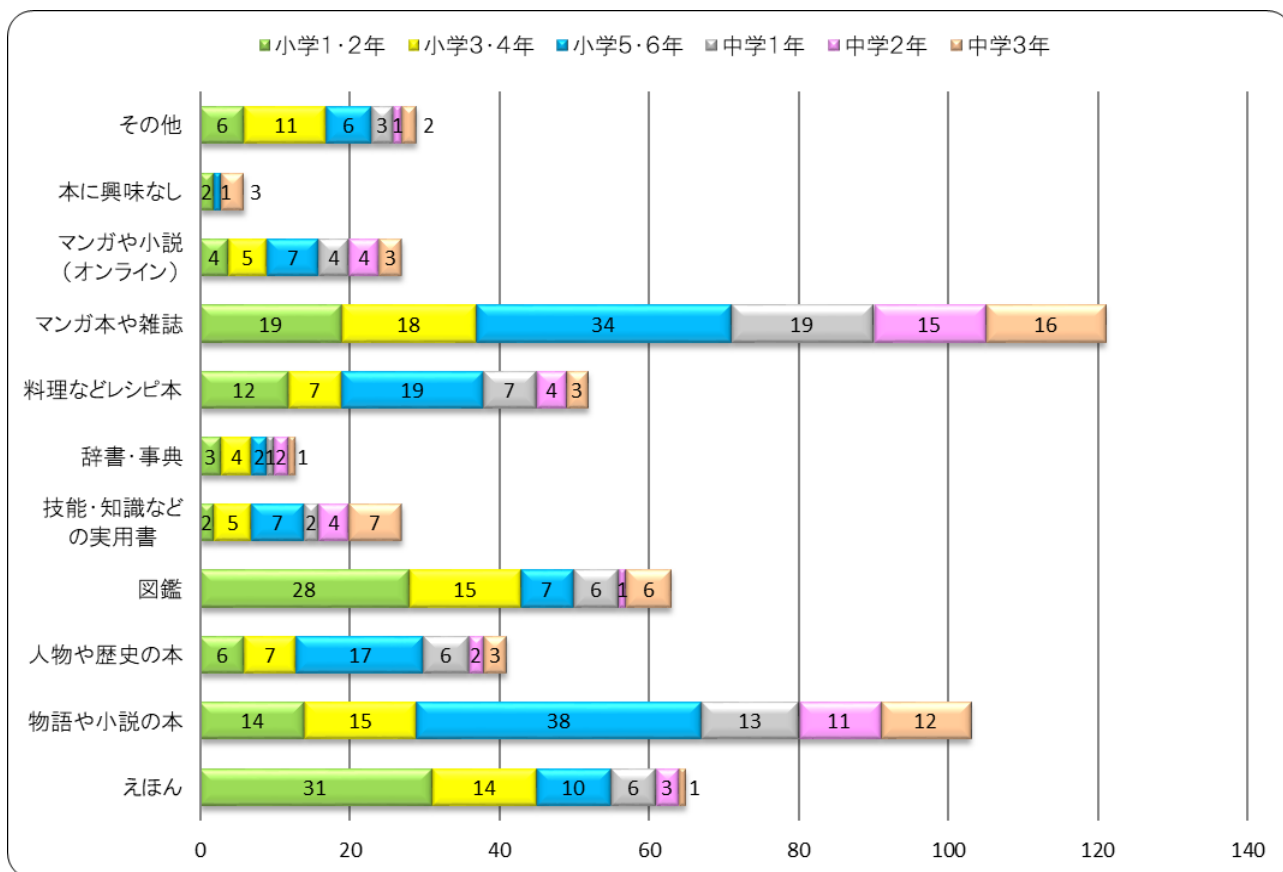
\*学年にかかわらず、本は読んでもらっていたようである。少数ではあるが、読んでもらっていない児童生徒がいることがわかる。

問2 あなたは本が好きですか？



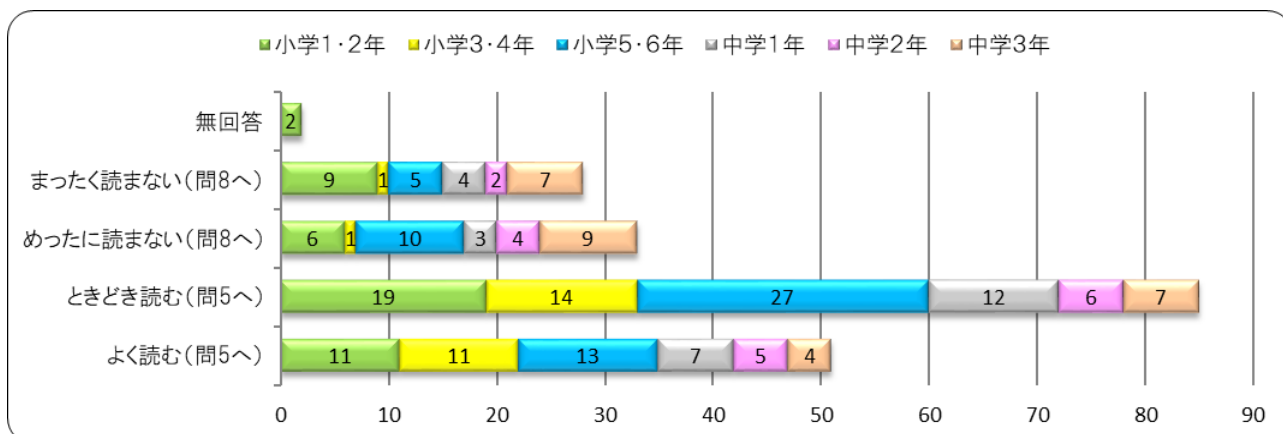
\*児童生徒の多くは本が好きなのである。これは問2の「小さい頃に本を読んでもらったか」の数値と関連性があると思われる。

問3 あなたはどんな種類の本に興味がありますか？（あてはまるものすべて）



\*低学年は絵本や図鑑が多いが、学年が上がるとその傾向は弱くなり物語や小説が増えてくるが、マンガや雑誌は低学年を除きすべての学年で最も多い数値となった。スマートフォンやタブレット、家庭でのWi-Fiの普及に伴いオンラインマンガを使っている児童生徒もいることわかる。

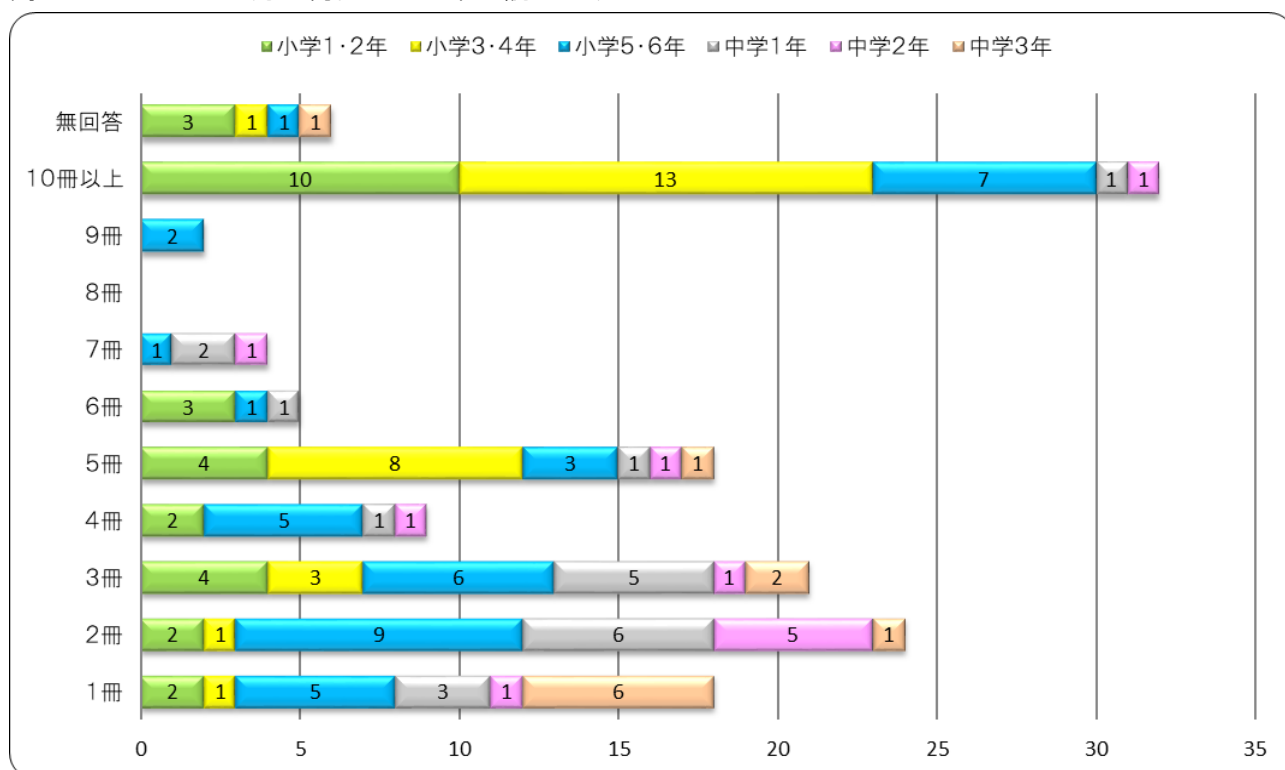
問4 あなたはえほんや物語・小説など、マンガの本や雑誌以外の本を読みますか？



\*児童生徒の多くは本を読んでいるようである。この数値も問2の「本が好きか」の数値と関連性があると思われる。

◇問4で「よく読む」「ときどき読む」と答えた人のみ。

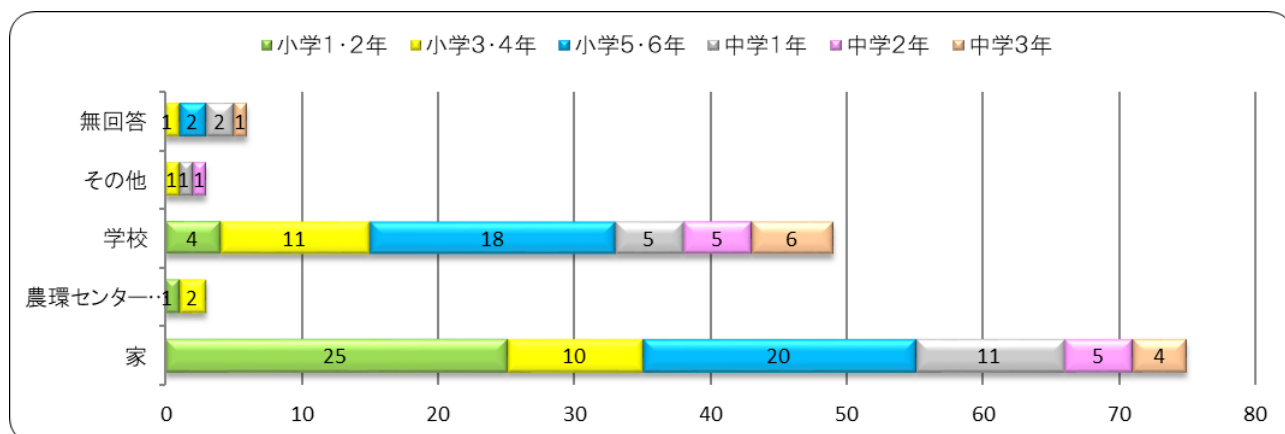
問5 あなたは1か月で何冊くらい本を読みますか？



\* 1～4年生は10冊以上読むが最も多いが、学年が上がると読む冊数が減っていく傾向にあり、児童生徒の多くは1～5冊程度の本を読んでいるようである。

◇問4で「よく読む」「ときどき読む」と答えた人のみ。

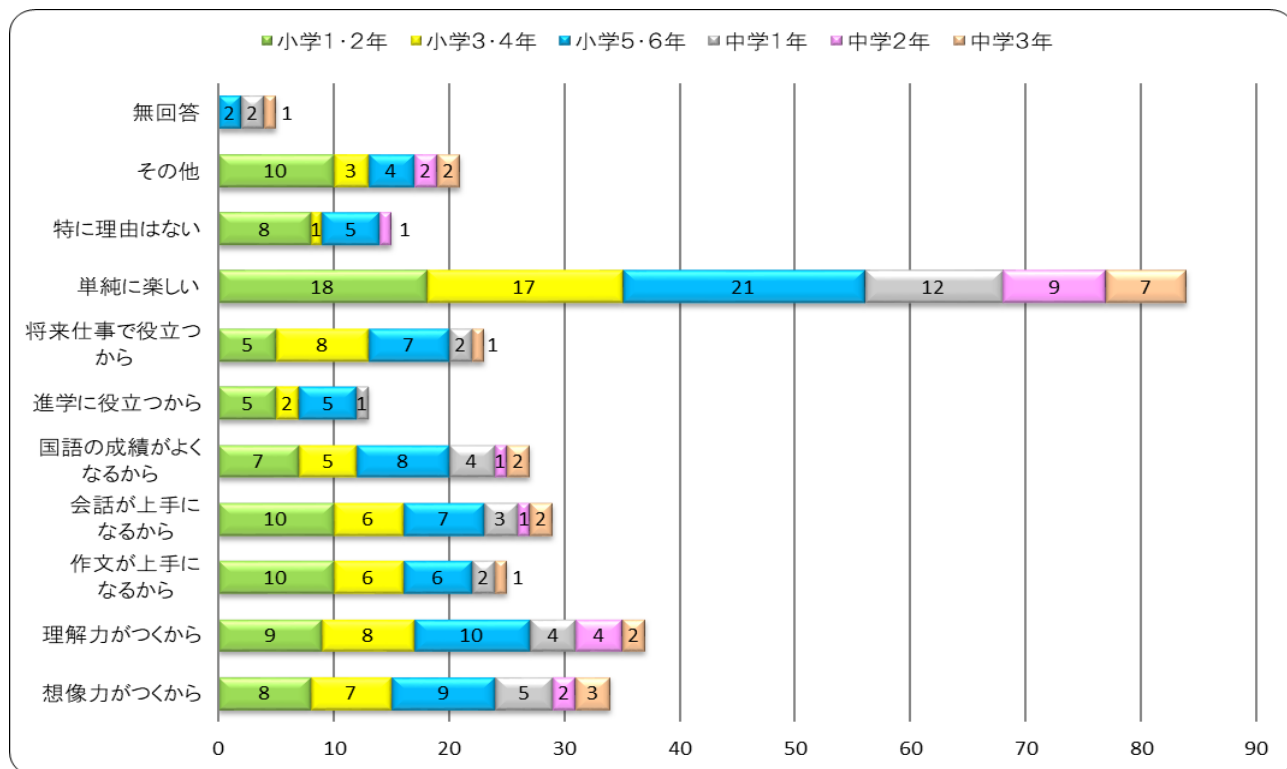
問6 本はどこで読むことが一番多いですか？



\*小学生の家や学校で読むが多いのは、移動図書館車、学校図書館（室）の利活用によるものが多いと思われる。また、農村環境改善センター図書室は本を「読むところ」ではなく「借りるところ」というのが定着しているのではないかと考える。

◇問4で「よく読む」「ときどき読む」と答えた人のみ。

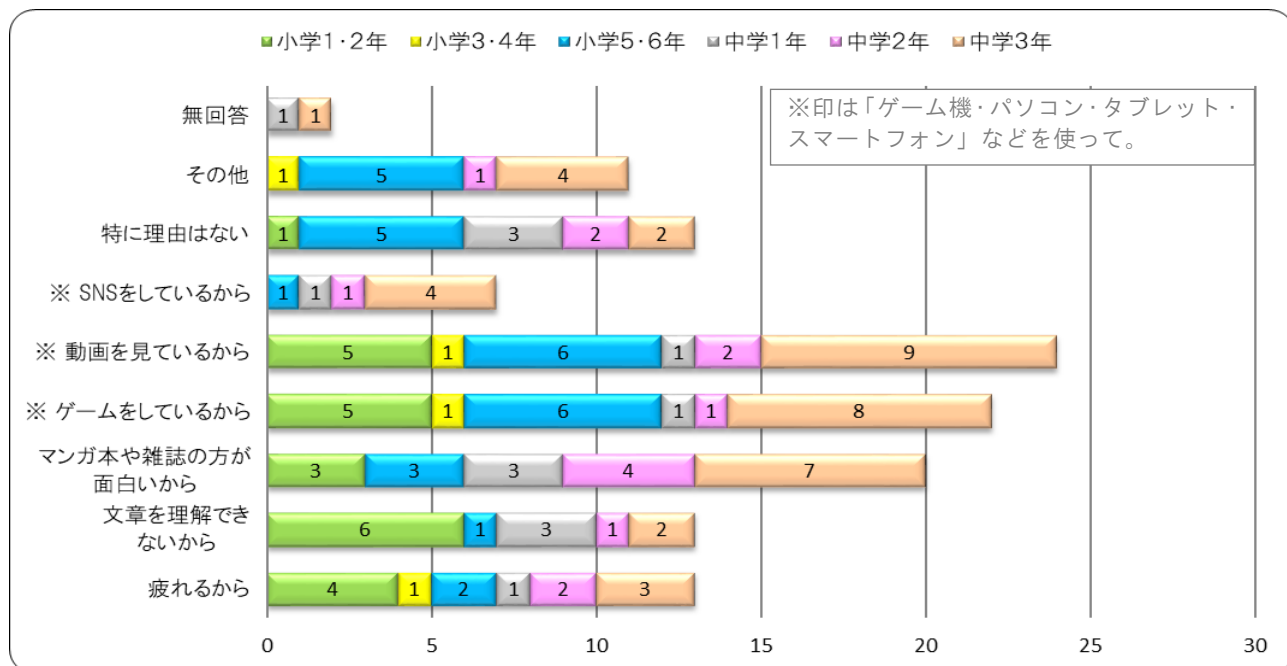
問7 どうして本を読むんですか？（あてはまるものすべて）



\*すべての学年において単純に楽しいが最も多くなったが、想像力や理解力がつく、会話や作文が上手になるなどの回答も多く、読書の持つ意味を理解しているようにも見える。

◆問4で「まったく読まない」「めったに読まない」と答えた人のみ。

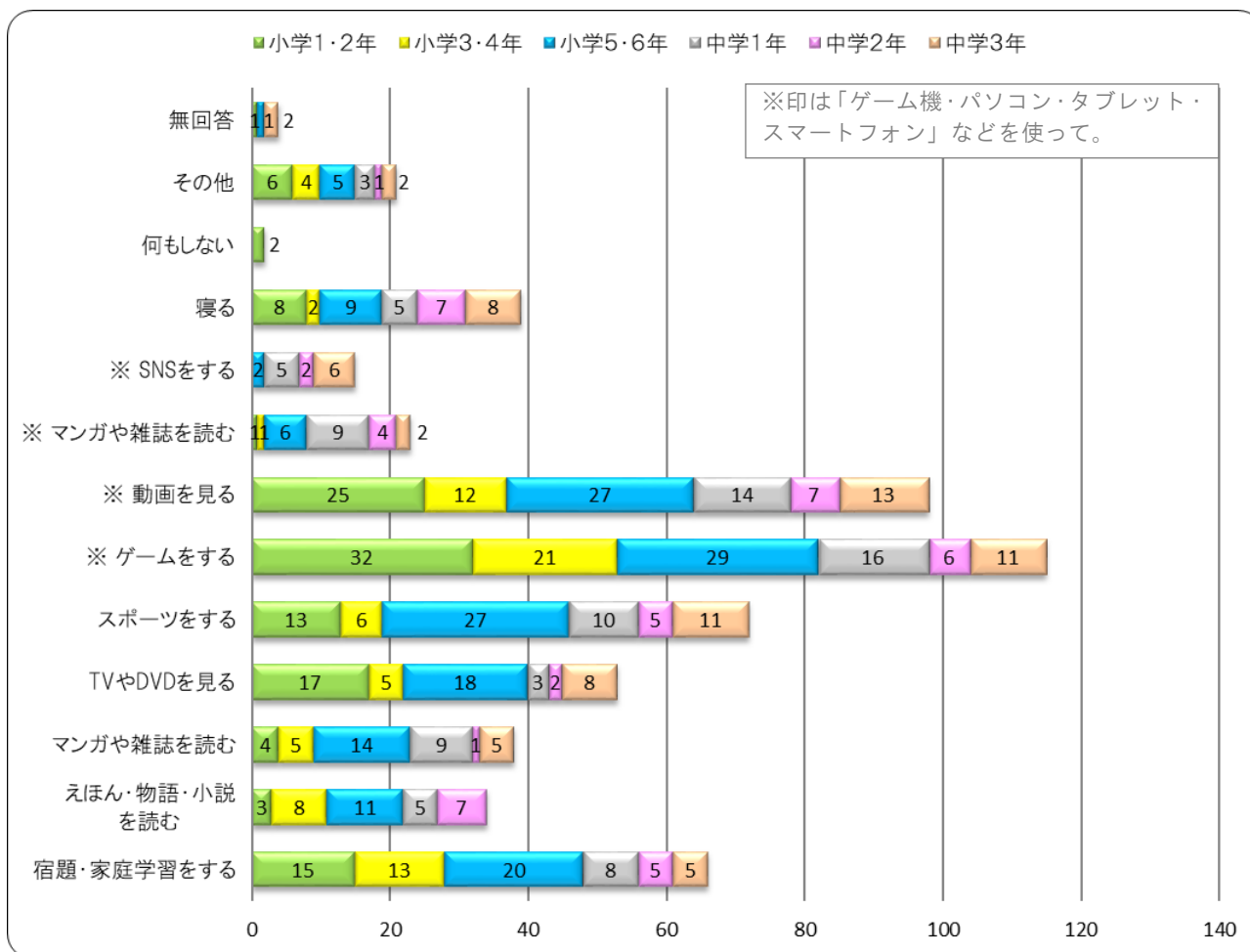
問8 どうして本を読まないんですか？（あてはまるものすべて）



\*読書の時間が減っているといわれる要因が現れた結果となった。



問9 みなさんに聞きます。自由な時間が3時間あったら何をしますか？（3つまで）



\*問8同様に動画を見るやゲームをするが多い結果となったが、スポーツや宿題・家庭学習をするという児童生徒も少なくない。

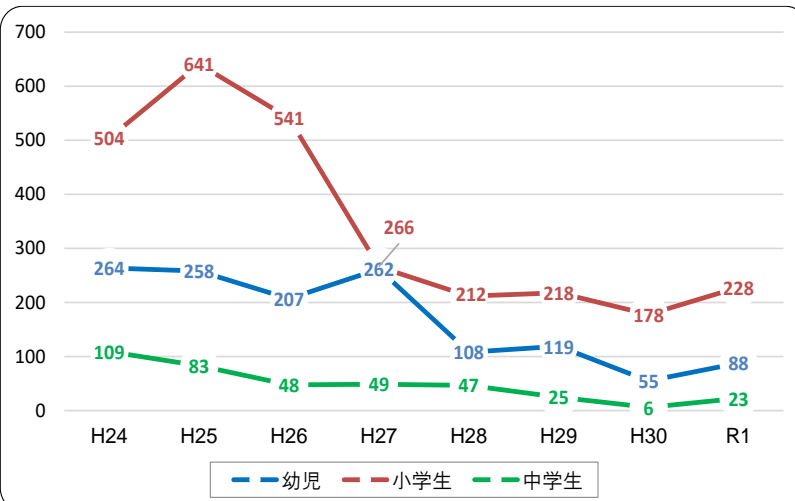
【参考資料】

○村内小中学校図書室蔵書数と国が定める標準蔵書数

| 学校名     | H27蔵書数 | H30蔵書(達成率)   | 標準蔵書数  | 標準蔵書数との差 |
|---------|--------|--------------|--------|----------|
| 鬼志別小学校  | 3,583冊 | 5,703冊(94%)  | 6,040冊 | △337冊    |
| 知来別小学校  | 4,266冊 | 4,604冊(114%) | 4,040冊 | 564冊     |
| 浜鬼志別小学校 | 4,537冊 | 4,769冊(79%)  | 6,040冊 | △1,271冊  |
| 浅茅野小学校  | 3,366冊 | 4,299冊(122%) | 3,520冊 | 779冊     |
| 拓心中学校   | 4,800冊 | 5,744冊(78%)  | 7,360冊 | △1,616冊  |

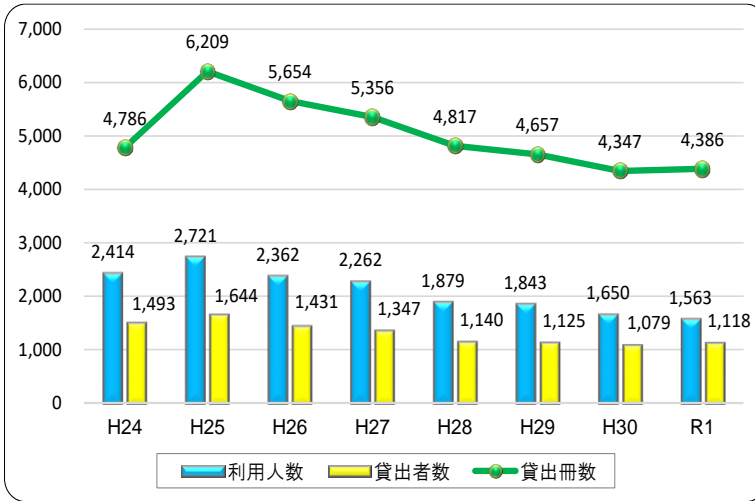
○図書室年間利用者数の推移

| 年度  | 幼児   | 小学生  | 中学生 |
|-----|------|------|-----|
| H25 | 258人 | 641人 | 83人 |
| H26 | 207人 | 541人 | 48人 |
| H27 | 262人 | 266人 | 49人 |
| H28 | 108人 | 212人 | 47人 |
| H29 | 119人 | 218人 | 25人 |
| H30 | 55人  | 178人 | 6人  |
| R1  | 88人  | 228人 | 23人 |



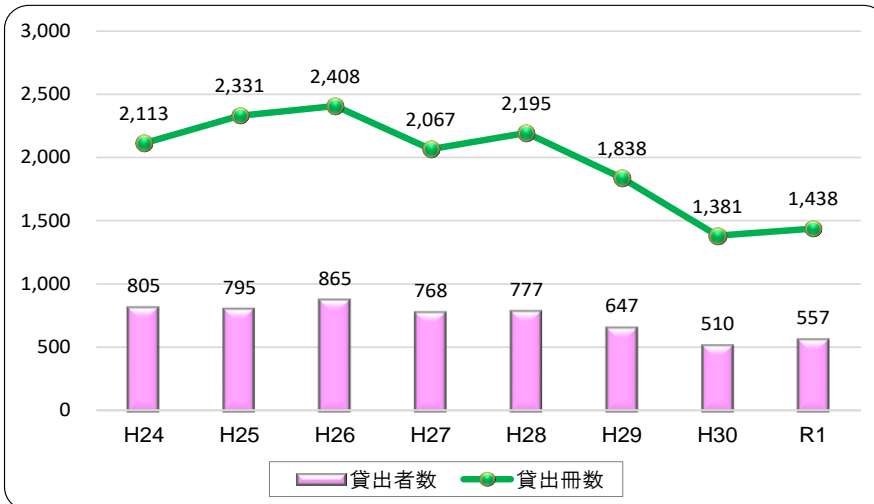
○図書貸出数の推移

| 年度  | 利用者数   | 貸出者数   | 貸出冊数   |
|-----|--------|--------|--------|
| H25 | 2,721人 | 1,644人 | 6,209冊 |
| H26 | 2,362人 | 1,431人 | 5,654冊 |
| H27 | 2,262人 | 1,347人 | 5,356冊 |
| H28 | 1,879人 | 1,140人 | 4,817冊 |
| H29 | 1,843人 | 1,125人 | 4,657冊 |
| H30 | 1,650人 | 1,079人 | 4,347冊 |
| R1  | 1,563人 | 1,118人 | 4,386冊 |



○移動図書館車利用者の推移

| 年度  | 貸出者数 | 貸出冊数   |
|-----|------|--------|
| H25 | 795人 | 2,331冊 |
| H26 | 865人 | 2,408冊 |
| H27 | 768人 | 2,067冊 |
| H28 | 777人 | 2,195冊 |
| H29 | 647人 | 1,838冊 |
| H30 | 510人 | 1,381冊 |
| R1  | 557人 | 1,438冊 |



# 村章



3つの稜は、分村独立（知性、勇気、情熱）、志向（歴史）を表徴する。  
円は、広域で豊かな未開地資源と、村政の調和を表現する。  
赤・紺2色の色彩は、山と海の幸を意味する。

（村章、村旗とも昭和43年5月9日制定）

---

---

## 村のシンボル

むらの木



ナナカマド

むらの花



コケモモ

むらの魚



イトウ

---

---